第2群の座長をつとめて

泉　　キヨ子
（金沢大学医療技術短期大学部看護学科）

第2群は事例研究に関するものが4題であった。どの演題も臨床でしばしば経験したり，イメージが描きやすいせいか，活発なそれでいて研究内容や方法論に関するような興味深い質疑応答が続出した。

4席.「神経性食欲不振症患者の正常な身体像の受容への援助」(下田弥千代さん発表)は，神経性食欲不振症の女性患者に看護介入し，接食改善した事例について，事例の身体像受容の過程を3期に分けて，各期の過程での看護婦の発言をスナイダー範疇に従い分析した報告である。質問やコメントの中で，スナイダー範疇は何人で分析したのか，意見が違うときはどのようにしたかというものがあり，4～5人で分析し，話合いを十分行ない，範疇をきめたということで，そのような大切なことは是非研究方法に加えたほうがよいという意見がだされた。看護記録の看護婦の発言をスナイダー範疇を使って分析したところが興味深い。

5席.「心気症の腹痛を訴える患者への看護援助過程の検討－看護婦の関わり方の変化が患者に与えた影響－」(野村厚子さん発表) 心気症の腹痛を訴える患者に，当初看護婦は，薬の量を減らそうと働きかけたところ，患者や家族に不安や混乱を招き，その後薬の自己管理と痛みのコントロールを患者にまかせたところ退院することができた事例から，その要因について分析した報告であった。質問は，実際の鎮痛剤の種類，コントロール前後の頻度の違い，心気症の薬などであった。難しい患者であればあるほど，看護婦が患者を人間としてトータルにみつめることの重要性を再確認した事例であった。

6席.「治療を拒否した老人の看護に関する－考察－肺切除後患者に喫煙を許可して－」(月田幸恵さん発表) この研究は，禁煙のため医療行為に反発し，拒否的態度をとる肺切除後の老人患者（75歳）に喫煙の規制を緩めたところ，拒んでいた服薬や食摂取が緩和されたので，そのケアの有効性を検討した報告である。どこの病棟でも経験するような禁煙に関した研究であるが，この患者は肺癌であり，喫煙の規制を緩めたが，喀痰のケアなどを頻回に行なうことで，呼吸機能の悪化はなかったと報告している。高齢者の多くなる中で，その人の生活習慣をもっと見直したり，ルチーンパターンでない看護について考えさせられた。

7席.「退院困難な老人患者の自宅復帰への可能性の検討－その2・長期入院，介護問題を有する老人患者の退院にむけて－」(川島和代さん発表) 退院困難な老人患者の自宅復帰への積極的な看護の取組みに関する2報である。スライドを加えた発表であり，一見不可能とも思える状況の中で，根気よく時期を待って退院となった看護者の取組みの姿勢に心うつものがあった。講評の野口美和子先生からは3期に絞ってまとめたらよいというコメントが得られた。さらに第3報を期待したい。